

2022 年 1 月 18 日
株式会社アイスタット
News Release

株式会社アイスタット マンスリーレポート

- 漢方薬に関する調査 -

(調査期間：2022年1月6日)

近年、漢方薬はドラッグストアや病医院など、さまざまな所で購入できるようになり、身近となりました。

株式会社アイスタット（本社：東京都杉並区、代表取締役社長：志賀保夫）は、一般市民が思う漢方薬のイメージや利用実態を知る目的として「漢方薬に関するアンケート」を実施しました。

業界最大規模のモニター数を誇るセルフ型アンケートツールFreeasy を運営するアイブリッジ株式会社（本社：大阪府大阪市）の会員 30 歳～79歳の300人を対象に調査を実施しました。

調査結果サマリー

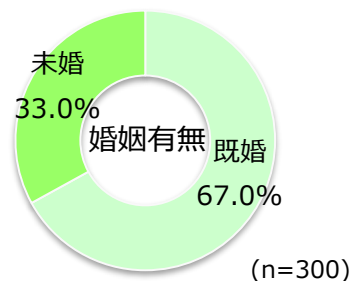
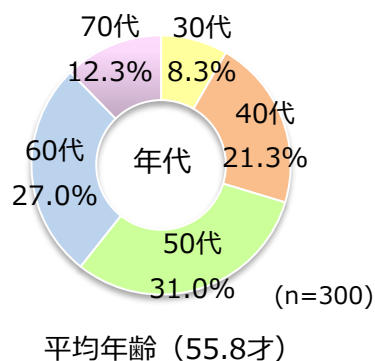
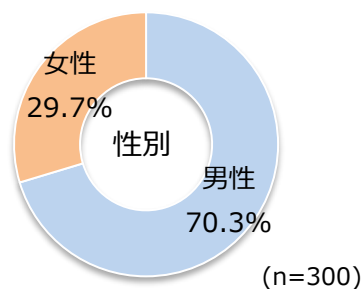
- ✓ 漢方薬に興味ある人は49.3%、興味ない人は50.7%とほぼ同じ割合！
- ✓ 医師から漢方薬を処方された場合、抵抗がないと回答した人は約6割！
- ✓ 漢方薬は効き目があると思っている人は45%、半数を下回る！
- ✓ 漢方薬を服用したことがある人は6割弱！
- ✓ 漢方薬を服用したきっかけ第1位は、「医師の処方」の46.4%！
- ✓ 漢方薬のイメージ第1位は、「即効性がなさそう」の34%！
- ✓ 漢方薬を服用してみたい症状第1位は、「肩こり、腰痛」の23.3%！
- ✓ 漢方薬を服用してみたくするには、「医師の積極的なすすめ」の39.7%が最多！

調査概要

形式	Webアンケート形式
調査期間	2022年1月6日
回答者	セルフ型アンケートツールFreeasyに登録している30歳～79歳の会員300人
調査機関	株式会社アイスタット

【回答者属性】

全体		300名	100.0%
性別	男性	211名	70.3%
	女性	89名	29.7%
年代	30代	25名	8.3%
	40代	64名	21.3%
	50代	93名	31.0%
	60代	81名	27.0%
	70代	37名	12.3%
有 婚 無 姻	未婚	99名	33.0%
	既婚	201名	67.0%
職 業	会社員(正社員)	82名	27.3%
	会社員(契約・派遣社員)	19名	6.3%
	経営者・役員	11名	3.7%
	公務員(教職員を除く)	4名	1.3%
	自営業	25名	8.3%
	自由業	9名	3.0%
	医師・医療関係者	6名	2.0%
	専業主婦	37名	12.3%
	パート・アルバイト	30名	10.0%
	無職	69名	23.0%
	その他	8名	2.7%
居 住 地	北海道・東北地方	26名	8.7%
	関東地方	131名	43.7%
	中部地方	39名	13.0%
	近畿地方	56名	18.7%
	四国・中国・九州地方・沖縄	48名	16.0%



主な分析結果

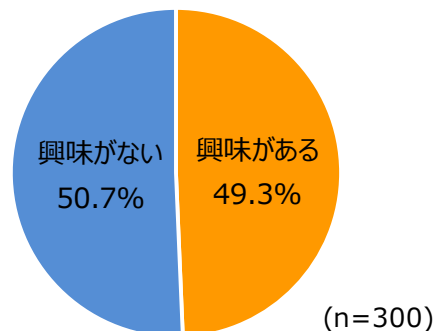
漢方薬に興味ある人は49.3%、興味ない人は50.7%とほぼ同じ割合！

漢方薬について興味や関心があるかを聞いたところ、「やや興味がある」の39.3%が最も多く、次に「あまり興味がない」の30.0%、「全く興味がない」の20.7%、「非常に興味がある」の10.0%の順で続いた。興味有無別に分類すると、「興味がある」は49.3%、「興味がない」は50.7%で、「興味がない」が若干、上回ったものの結果は、ほぼ同じ割合だった。しかしながら、「興味がない」が半数もいる実態は浮き彫りとなった。

「興味がある」と回答した人の属性をみると、「70代」で最も多く、次に「30代・40代」が多かった。

【図1】 あなたは、漢方薬について、興味や関心がありますか。（回答は1つ）

漢方薬について	n	%
非常に興味がある	30	10.0%
やや興味がある	118	39.3%
あまり興味がない	90	30.0%
全く興味がない	62	20.7%
全体	300	100.0%



(横%表)

		漢方薬について		n
		興味がある	興味がない	
全体		49.3	50.7	300
年代	30代・40代	53.9	46.1	89
	50代	41.9	58.1	93
	60代	45.7	54.3	81
	70代	64.9	35.1	37

各項目を縦に見て最大値に彩色

【豆知識】～漢方薬と西洋薬の違い～

漢方薬は、中国の伝統医学である「中医学」が、5世紀頃に日本に伝わったのが始まりです。長い歴史の中で、様々な作用を持った植物や動物、鉱物など、天然の素材を複数組み合わせで作られてきました。体のバランスを整えたり、巡らすといった考え方が基礎にあります。

これより、**漢方薬は身体全体の調子を整える薬**、**西洋薬は症状や病気をピンポイントに改善させる薬**。どちらにも良い点、悪い点があり、合わせて用いることで補い合うことができると考えられています。

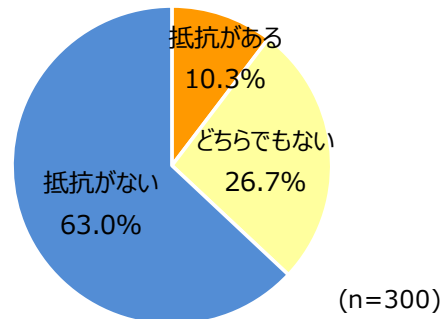
医師から漢方薬を処方された場合、抵抗がないと回答した人は約6割！

医師から漢方薬を処方された場合、抵抗があるかを聞き、抵抗有無別に分類してみたところ、「抵抗がない」が63.0%で最も多く、次に「どちらでもない」の26.7%、「抵抗がある」の10.3%と続いた。漢方薬を取り巻くイメージがある中、医師の処方であれば漢方薬に抵抗がない人が約6割もいる結果は、医師に絶対的な信頼感があることがうかがえる。

年代別でみると、「抵抗がない」を回答した人は70代で最も多く、「抵抗がある」を回答した人は30代・40代で最も多かった。

【図2】あなたは、医師から漢方薬を処方された場合、抵抗がありますか。（回答は1つ）

医師から処方された時	n	%
非常に抵抗がある	12	4.0%
やや抵抗がある	19	6.3%
どちらでもない	80	26.7%
あまり抵抗がない	106	35.3%
全く抵抗がない	83	27.7%
全体	300	100.0%



(横%表)

		医師から漢方薬を処方された時			n
		抵抗がある	どちらでもない	抵抗がない	
全体		10.3	26.7	63.0	300
年代	30代・40代	13.5	22.5	64.0	89
	50代	9.7	30.1	60.2	93
	60代	11.1	28.4	60.5	81
	70代	2.7	24.3	73.0	37

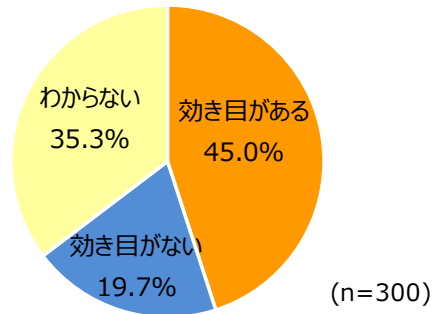
各項目を縦に見て最大値に彩色

漢方薬は効き目があると思っている人は45%、半数を下回る！

漢方薬の効果（体調改善）について聞き、効果有無別に分類してみたところ、「効き目がある」が45.0%で最も多く、次に「わからない」の35.3%、「効き目がない」の19.7%の順で続いた。効き目があると思っている人が約4割台にとどまり半数を下回る結果は、漢方薬の効果が浸透しておらず、漢方薬に関する情報提供活動が重要であることが示された。

【図3】あなたは、漢方薬の効果（体調改善）についてどう思いますか。（回答は1つ）

効果（体調改善）	n	%
非常に効き目がある	9	3.0%
どちらかという効き目がある	126	42.0%
どちらかという効き目がない	48	16.0%
全く効き目がない	11	3.7%
わからない	106	35.3%
全体	300	100.0%



(横%表)

		漢方薬の効果（体質改善）			n
		効き目がある	効き目がない	わからない	
全体		45.0	19.7	35.3	300
年代	30代・40代	49.4	16.9	33.7	89
	50代	40.9	20.4	38.7	93
	60代	43.2	25.9	30.9	81
	70代	48.6	10.8	40.5	37

各項目を縦に見て最大値に彩色

(横%表)

		漢方薬の効果（体質改善）			n
		効き目がある	効き目がない	わからない	
全体		45.0	19.7	35.3	300
Q2 医師から漢方薬を処方された時	抵抗がある	35.5	41.9	22.6	31
	どちらでもない	22.5	20.0	57.5	80
	抵抗がない	56.1	15.9	28.0	189

各項目を縦に見て最大値に彩色

＜年代別＞ 「効き目がある」を回答した人は30代・40代で最も多く、「効き目がない」を回答した人は60代で最も多かった。

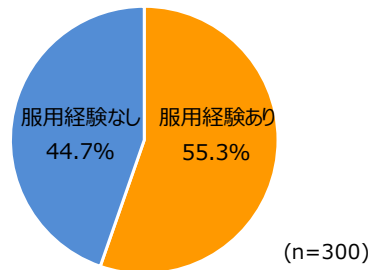
＜Q2別＞ 「効き目がある」と思っている人ほど、「医師から漢方薬を処方された時、抵抗がない」、「効き目がない」と思っている人ほど、「医師からの漢方薬を処方された時、抵抗がある」、妥当な結果であった。

漢方薬を服用したことがある人は6割弱！

漢方薬の服用状況を聞いたところ、「一度も服用したことがない」が44.7%で最も多く、次に「現在は服用していないが、過去に服用したことがある」の35.0%、「ときどき、服用している」の16.0%、「毎日、服用している」の4.3%の順で続いた。服用状況の有無別に分類すると、服用経験あり（55.3%）が服用経験なし（44.7%）を上回る結果となった。服用経験なしの4割は多いとみるか、それとも少ないとみるか。いずれにせよ健康で薬の必要性がないゆえの結果であることを願う。

【図4】あなたの漢方薬の服用状況を教えてください。（回答は1つ）

服用状況	n	%
毎日、服用している	13	4.3%
ときどき、服用している	48	16.0%
現在は服用していないが、過去に服用したことがある	105	35.0%
一度も服用したことがない	134	44.7%
全体	300	100.0%



(横%表)

		漢方薬の服用状況				n
		毎日、服用している	ときどき、服用している	過去に服用したことがある	一度も服用したことがない	
年代	全体	4.3	16.0	35.0	44.7	300
	30代・40代	6.7	18.0	28.1	47.2	89
	50代	5.4	17.2	35.5	41.9	93
	60代	1.2	14.8	35.8	48.1	81
	70代	2.7	10.8	48.6	37.8	37

表側項目内を縦に見て最大に彩色

<年代別> 漢方薬を「毎日、服用」「ときどき、服用」を回答した人は、共に「30代・40代」で最も多く、年齢が高い層になるにつれ低くなる傾向がみられた。

<Q2別> 「毎日」「ときどき」を回答した人ほど、医師からの漢方薬処方に「抵抗がある」、意外な結果であった。一方、「現在は服用していないが、過去に服用したことがある」を回答した人ほど「抵抗がない」が多かった。継続的の服用か否かで「抵抗」の賛否がわかれた結果は、留意されたい。

(横%表)

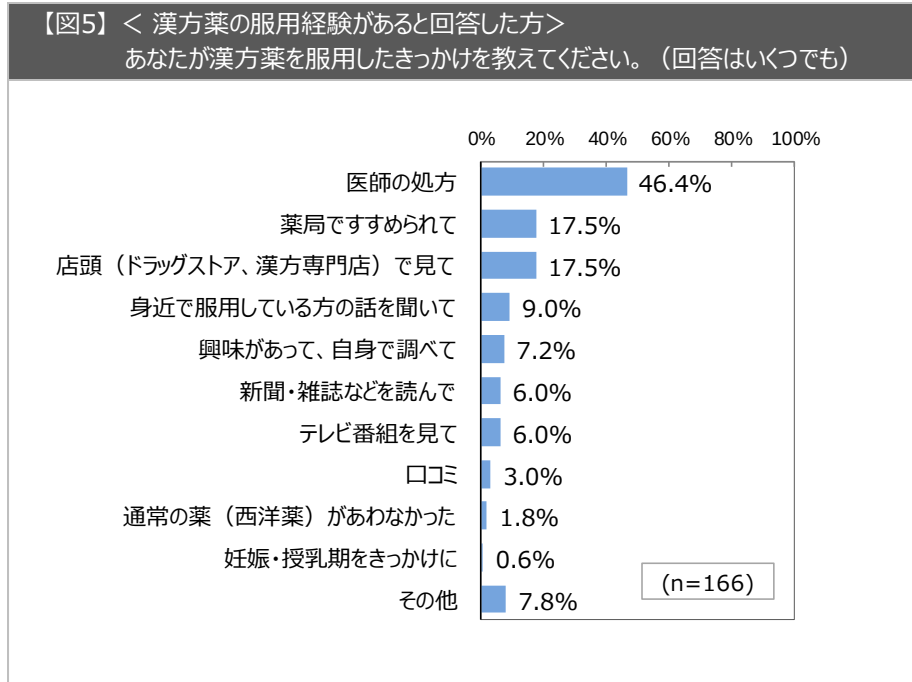
		漢方薬の服用状況				n
		毎日、服用している	ときどき、服用している	過去に服用したことがある	一度も服用したことがない	
Q2 医師処方	全体	4.3	16.0	35.0	44.7	300
	抵抗がある	9.7	25.8	16.1	48.4	31
	どちらでもない	1.3	12.5	30.0	56.3	80
	抵抗がない	4.8	15.9	40.2	39.2	189
Q3 効果	効き目がある	6.7	26.7	40.0	26.7	135
	効き目がない	3.4	15.3	39.0	42.4	59
	わからない	1.9	2.8	26.4	68.9	106

表側項目内を縦に見て最大に彩色

<Q3別> 「毎日」「ときどき」「過去に」服用したことがあると回答した人ほど、「効き目がある」が多かった。服用経験ありの人にとっては、漢方薬は肯定的と思われる結果となった。

漢方薬を服用したきっかけ第1位は、「医師の処方」46.4%！

漢方薬の服用経験があると回答した166名に服用したきっかけを聞いたところ、「医師の処方」が46.4%で最も多く、次に「薬局ですすすめられて」の17.5%、「店頭（ドラッグストア、漢方専門店）で見て」の17.5%の順で続いた。



(横%表) 各項目を縦に見て最大値に彩色、彩色ごとに並び替え、n = 30未満は参考値

		漢方薬を服用したきっかけ											n
		医師の処方	身近で服用している方の話を聞いて	新聞・雑誌などを読んで	テレビ番組を見て	口コミ	通常の薬があわなかった	薬局ですすすめられて	店頭で見て	興味があって、自身で調べて	妊娠・授乳期をきっかけに	その他	
全体		46.4	9.0	6.0	6.0	3.0	1.8	17.5	17.5	7.2	0.6	7.8	166
年代	30代・40代	36.2	10.6	2.1	4.3	2.1	0.0	25.5	29.8	14.9	2.1	4.3	47
	50代	44.4	7.4	5.6	7.4	3.7	5.6	14.8	16.7	5.6	0.0	14.8	54
	60代	54.8	7.1	7.1	4.8	4.8	0.0	14.3	11.9	0.0	0.0	7.1	42
	70代	56.5	13.0	13.0	8.7	0.0	0.0	13.0	4.3	8.7	0.0	0.0	23

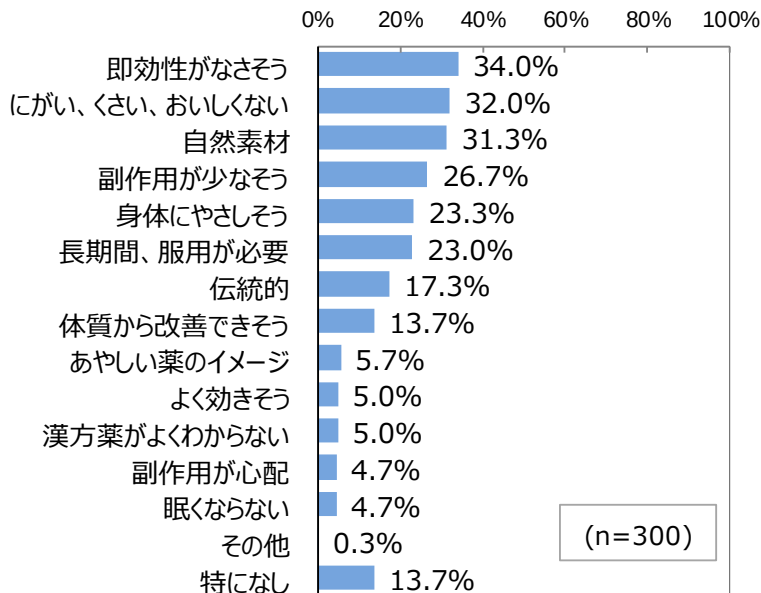
		医師の処方	薬局ですすすめられて	店頭で見て	妊娠・授乳期をきっかけに	身近で服用している方の話を聞いて	興味があって、自身で調べて	新聞・雑誌などを読んで	テレビ番組を見て	通常の薬があわなかった	口コミ	その他	n
Q3 漢方薬の効果	効き目がある	51.5	22.2	18.2	1.0	6.1	7.1	6.1	7.1	2.0	3.0	6.1	99
	効き目がない	32.4	14.7	17.6	0.0	14.7	8.8	8.8	8.8	2.9	0.0	2.9	34
	わからない	45.5	6.1	15.2	0.0	12.1	6.1	3.0	0.0	0.0	6.1	18.2	33

＜Q3別＞ 「医師の処方」「薬局ですすすめられて」「店頭で見て」「妊娠・授乳期をきっかけ」を回答した人は、「効き目がある」が最も多かった。いかに、自身にあった漢方薬を正しく服用することが重要であることが示された結果であった。

漢方薬のイメージ、第1位「即効性がなさそう」34%、第2位「にがい、くさい、おいしくない」32% !

漢方薬のイメージを聞いたところ、「即効性がなさそう」が34.0%で最も多く、次に「にがい、くさい、おいしくない」の32.0%、「自然素材」の31.3%、「副作用が少なそう」の26.7% の順で続いた。上位の2つは、マイナスイメージの内容が占めた。

【図6】 あなたは、漢方薬にどのようなイメージがありますか。（回答はいくつでも）



(横%表)

		漢方薬のイメージ															n
		自然素材	即効性がなさそう	副作用が少なそう	身体にやさしそう	伝統的	にがい、くさい、おいしくない	よく効きそう	あやしい薬のイメージ	長期間、服用が必要	体質から改善できそう	副作用が心配	眠くならない	漢方薬がよくわからない	その他	特になし	
全体		31.3	34.0	26.7	23.3	17.3	32.0	5.0	5.7	23.0	13.7	4.7	4.7	5.0	0.3	13.7	300
年代	30代・40代	13.5	23.6	21.3	20.2	13.5	41.6	7.9	6.7	15.7	15.7	4.5	5.6	4.5	0.0	16.9	89
	50代	28.0	30.1	20.4	23.7	10.8	30.1	5.4	6.5	17.2	9.7	7.5	7.5	6.5	1.1	14.0	93
	60代	37.0	40.7	34.6	19.8	19.8	27.2	2.5	4.9	33.3	17.3	2.5	1.2	3.7	0.0	12.3	81
	70代	70.3	54.1	37.8	37.8	37.8	24.3	2.7	2.7	32.4	10.8	2.7	2.7	5.4	0.0	8.1	37

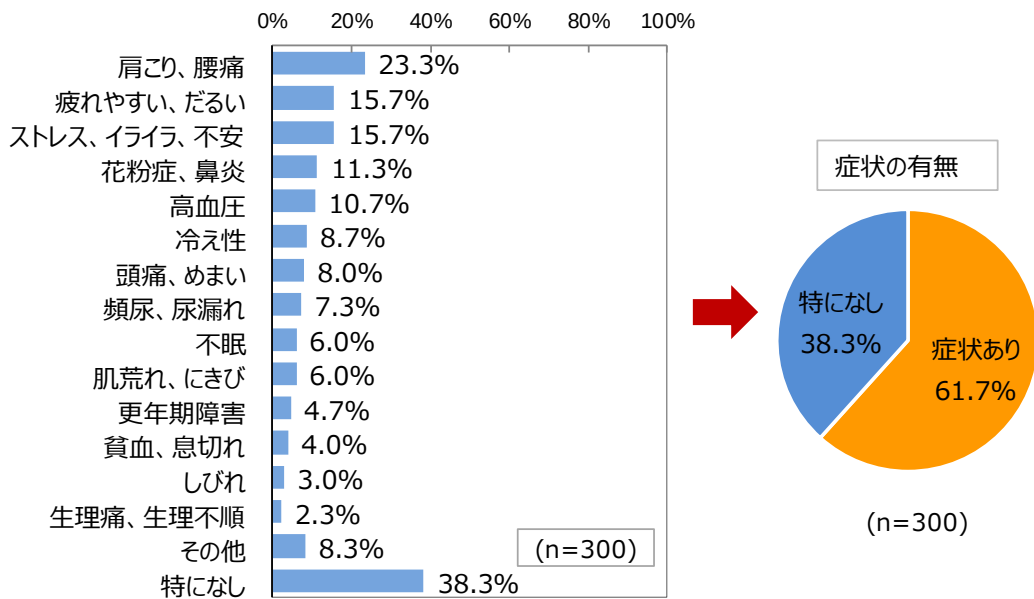
各項目を縦に見て最大値に彩色

年代の彩色ごとに並び替え

漢方薬を服用してみたい症状第1位は、「肩こり、腰痛」の23.3%！

漢方薬を服用してみたい症状、もしくは既に漢方薬を服用した症状を聞いたところ、「特になし」を除けば、「肩こり、腰痛」が23.3%で最も多く、次に「疲れやすい、だるい」「ストレス、イライラ、不安」の15.7%の順で続いた。症状の有無別に分類すると、約6割の人が漢方を服用したい、もしくは既に使用している結果だった。一方、4割の人が漢方薬の服用意向がない結果は、自身の身体に症状がないためという理由であればよいが、漢方薬の服用に消極的という意見であれば、漢方薬を推奨する側としては少し残念な結果と思われる。

【図7】あなたは、今後、漢方薬を服用してみたい症状、もしくは既に漢方薬を服用した症状はありますか。（回答はいくつでも）



(横%表)

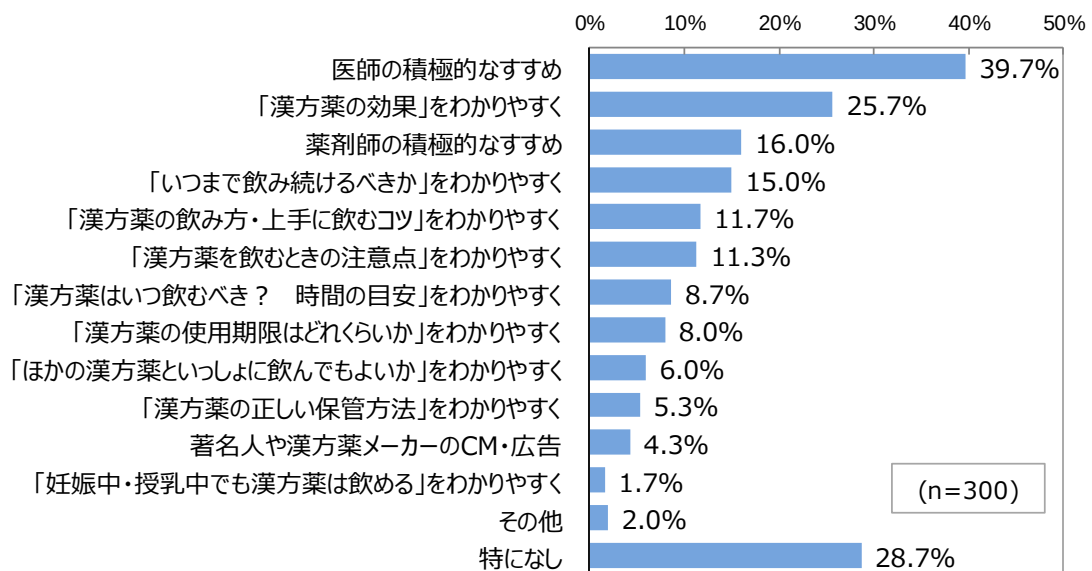
		漢方薬を服用してみたい・既に服用の症状																	n
		ストレス、イライラ、不安	疲れやすい、だるい	花粉症、鼻炎	冷え性	肌荒れ、にきび	頭痛、めまい	不眠	更年期障害	生理痛、生理不順	貧血、息切れ	肩こり、腰痛	高血圧	頻尿、尿漏れ	しびれ	その他	特になし		
全体		15.7	15.7	11.3	8.7	6.0	8.0	6.0	4.7	2.3	4.0	23.3	10.7	7.3	3.0	8.3	38.3	300	
年代	30代・40代	25.8	20.2	14.6	14.6	12.4	11.2	9.0	6.7	6.7	6.7	25.8	9.0	1.1	2.2	2.2	38.2	89	
	50代	15.1	11.8	7.5	5.4	2.2	8.6	2.2	4.3	1.1	3.2	26.9	8.6	8.6	2.2	8.6	35.5	93	
	60代	9.9	13.6	12.3	6.2	3.7	7.4	7.4	2.5	0.0	3.7	13.6	8.6	8.6	3.7	13.6	43.2	81	
	70代	5.4	18.9	10.8	8.1	5.4	0.0	5.4	5.4	0.0	0.0	29.7	24.3	16.2	5.4	10.8	35.1	37	

各項目を縦に見て最大値に彩色 年代の彩色ごとに並び替え

漢方薬を服用してみたいくなるには、「医師の積極的なすすめ」の39.7%が最多！

漢方薬を服用してみたいくなるためには？を聞いたところ、「医師の積極的なすすめ」が39.7%で最も多く、次に「特になし」の28.7%、「漢方薬の効果をわかりやすく」の25.7%、「薬剤師の積極的なすすめ」の16.0%の順で続いた。「医師」「効果」「薬剤師」が上位を占めたのは、安心感がないと服用しないといった理由が予想される。

【図8】あなたが、漢方薬を服用してみたいくなるためには？（回答はいくつでも）



(横%表)

		漢方薬を服用してみたいくなるためには														n
		医師の積極的なすすめ	「漢方薬の効果」をわかりやすく	薬剤師の積極的なすすめ	「いつまで飲み続けるべきか」をわかりやすく	「漢方薬の飲み方・上手に飲むコツ」をわかりやすく	「漢方薬を飲むときの注意点」をわかりやすく	「漢方薬はいつ飲むべき？時間の目安」をわかりやすく	「漢方薬の使用期限はどれくらいか」をわかりやすく	「ほかの漢方薬といっしょに飲んでもよいか」をわかりやすく	「漢方薬の正しい保管方法」をわかりやすく	著名人や漢方薬メーカーのCM・広告	「妊娠中・授乳中でも漢方薬は飲める」をわかりやすく	その他	特になし	
	全体	39.7	25.7	16.0	15.0	11.7	11.3	8.7	8.0	6.0	5.3	4.3	1.7	2.0	28.7	300
年代	30代・40代	33.7	27.0	16.9	14.6	14.6	10.1	7.9	9.0	9.0	7.9	4.5	2.2	0.0	31.5	89
	50代	37.6	19.4	9.7	12.9	9.7	12.9	7.5	5.4	3.2	5.4	7.5	2.2	2.2	29.0	93
	60代	42.0	29.6	16.0	14.8	9.9	8.6	6.2	7.4	2.5	3.7	2.5	1.2	1.2	33.3	81
	70代	54.1	29.7	29.7	21.6	13.5	16.2	18.9	13.5	13.5	2.7	0.0	0.0	8.1	10.8	37

各項目を縦に見て最大値に彩色

今月のレベルup 「母比率の差の検定」⇒ 2つの母集団の比率に差があるかを調べたい時

検定とは、集団の一部分（標本）にアンケート調査や実験を行った結果が、集団全体（母集団）に
もいえるかどうか（関連性があるといえるか）を調べる方法です。

2つの母集団の比率に差があるかを調べたい時は、**母比率の差の検定**を適用します。

＜結果の解釈の仕方＞

判定マークがある項目は、母集団に違いがあるといえる。（有意な差がある）

※「それ以外」⇒ 抵抗がある、どちらでもない

ピンク：プラスの内容

水色：マイナスの内容

表側項目内を縦に見て最大に彩色、彩色ごとに並び替え

		漢方薬のイメージ																n
		副作用 が少な そう	身体にや さしそ う	体質から 改善でき そう	自然素 材	伝統的	よく効き そう	長期間、 服用が 必要	眠くなら ない	即効性 がなさ そう	漢方薬 がよくわ からない	あやしい 薬のイ メージ	副作用 が心配	にがい、く さい、お いしくな い	その他	特になし		
	全体	26.7	23.3	13.7	31.3	17.3	5.0	23.0	4.7	34.0	5.0	5.7	4.7	32.0	0.3	13.7	300	
Q2 医師処方	抵抗がない	34.9	31.2	19.0	35.4	21.2	7.4	25.4	4.8	33.3	3.2	3.7	2.6	28.6	0.0	13.8	189	
	それ以外	12.6	9.9	4.5	24.3	10.8	0.9	18.9	4.5	35.1	8.1	9.0	8.1	37.8	0.9	13.5	111	
母比率の差の 検定 (z 検定)	%差	22.3	21.3	14.5	11.1	10.4	6.5	6.5	0.3	-1.8	-4.9	-5.3	-5.5	-9.3	-0.9	0.2		
	p 値	0.000	0.000	0.000	0.045	0.022	0.013	0.198	0.919	0.750	0.058	0.055	0.030	0.097	0.191	0.953		
	判定	【**】	【**】	【**】	【*】	【*】	【*】	【 】	【 】	【 】	【 】	【 】	【*】	【 】	【 】	【 】		

p値≤0.01 [**] 0.01<p値≤0.05 [*] p値>0.05 []

表側項目内を縦に見て最大に彩色、彩色ごとに並び替え

		漢方薬のイメージ																n
		長期間、 服用が 必要	よく効き そう	体質から 改善でき そう	身体にや さしそ う	副作用 が少な そう	即効性 がなさ そう	副作用 が心配	伝統的	あやしい 薬のイ メージ	眠くなら ない	自然素 材	にがい、く さい、お いしくな い	漢方薬 がよくわ からない	その他	特になし		
Q4 服用状況	全体	23.0	5.0	13.7	23.3	26.7	34.0	4.7	17.3	5.7	4.7	31.3	32.0	5.0	0.3	13.7	300	
	服用経験あり	26.5	8.4	16.3	25.9	28.9	35.5	6.0	18.7	6.6	5.4	30.7	31.3	1.8	0.6	6.6	166	
	服用経験なし	18.7	0.7	10.4	20.1	23.9	32.1	3.0	15.7	4.5	3.7	32.1	32.8	9.0	0.0	22.4	134	
母比率の差の 検定 (z 検定)	%差	7.8	7.7	5.8	5.8	5.0	3.5	3.0	3.0	2.1	1.7	-1.4	-1.5	-7.1	0.6	-15.8		
	p 値	0.108	0.002	0.145	0.241	0.327	0.530	0.215	0.495	0.424	0.490	0.800	0.780	0.005	0.368	0.000		
	判定	[]	[**]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[**]	[]	[**]	

p値≤0.01 [**] 0.01<p値≤0.05 [*] p値>0.05 []

＜解釈例＞ Q2について

漢方薬のイメージは、医師処方に「抵抗がない人」「それ以外の人」で違いがあるかを調べた。
「副作用が少なそう」「身体にやさしそう」「体質から改善できそう」「自然素材」「伝統的」
「よく効きそう」「長期間、服用が必要」「眠くならない」を回答した人ほど、医師に処方された
時、「抵抗がない」の人が多かった。

「抵抗がない」「それ以外」の違い（差）が最も大きかった内容は「副作用が少なさそう」で、
次に「身体にやさしそう」、「体質から改善できそう」の順と続いた。

判定マークがある内容は、母集団にも違いがあるといえる。（有意な差がある）

サマリーレポートはこちらを参照ください。

こちらを参照ください。

<https://istat.co.jp/investigation/2022/01/result>

- 統計分析研究所 株式会社アイスstattについて

【株式会社アイスstatt（統計分析研究所）会社概要】

◇所在地 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-22-26 パラドール東高円寺3F（旧YTビル）

◇設立 2011年6月2日

◇代表者 代表取締役社長 志賀 保夫

◇事業内容 株式会社アイスstatt(統計分析研究所)は、統計学 を礎とした情報サービス業 に従事しています。

◆本調査・弊社事業などに関するお問合せ先◆

統計分析研究所 株式会社アイスstatt <https://istat.co.jp/>

総務部 橋本 有子 (somu@istat.jp) TEL: 03-3315-7637/FAX: 03-3315-7660

書籍発売のご案内



監 修：菅 民郎
著 者：志賀保夫、姫野尚子
出版社：オーム社
価 格：2,500円（税抜き）
体 裁：A5版256頁
発売日：2019年9月

使える51の統計手法

本書はビジネスの世界で統計解析を身につけ、実務で使いたい、しかし、難解な統計解析にどのように取り組めばいいのかわからないとする方々を対象に統計手法をやさしく解説しています。

業務や卒業研究・論文などで良く使われる51個の統計手法をピックアップ。イラストと例題、図表を用いてわかりやすく解説しています。また各手法ごとに「使える場面」が掲載されているので、学びたい手法を見つけやすく、ピンポイントで学ぶことができる便利な1冊です。

アイスstattでは統計セミナーを定期開催しています。
開催スケジュールは[こちら](#)をご参照ください。